

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2020.3
No.319

常者と障がい者が共に働くことを可能にしています。

イナテックサービスは、これまでの障がい者によるイナテックグループ事業への貢献に加え、これからもイナテックグループ各社への障がい者雇用に関する教育・採用活動、雇用管理も行っていきます。

イナテックサービスという会社

イナテックサービスは、障がい者の雇用機会の創出や拡大を目的として設立しております、イナテックグループ内の施設清掃や緑化整備、オフィスサポート等を主な事業としています。

イナテックサービスは「ノーマライゼーション」

(障がいのある人が障がいのない人と平等に生活し、ともに笑顔でいきいきと活動できる社会を実現させる考え方)を基本理念として、障がい者の人たちも健常者と同じ職場・業務で就業する障がい者雇用を行つてきました。

これまで、健常者と障がい者との同じ職場での業務は難しいとされていましたが、イナテックサービスは、障がい者の特性に合わせた就労機会を創出することにより、同じ工場内で健

成長支援の手段のひとつとして導入するものです。

将来的には、災害、防犯、点検等、人間の危険を回避するためにドローンが活躍できるシステムを開発し、世の中の皆さんに貢献していくたいと考えております。

尚、イナテック ドローン アカデミーは「国土交通省認定校」です。操作方法・法令・安全に対する“正しい知識”を身につけていただきドローンライフを楽しんでくださいますよう支援させていただきます。

イナテックサービスが 『イナテック ドローン アカデミー』開校

2020年3月よりドローン(無人航空機)の操縦免許を取得できるイナテック ドローン アカデミーを開講いたしました。

イナテックサービスでは、障がい者の人たちの病の改善や“障がい”を「個性」と捉えて、その人の才能を引き出すことを通して、社会的に自立できるように支援することがイナテックサービスの社会貢献と考えています。

昨今、上司や先輩の立場にある方々から、部下や後輩との世代間ギャップに困惑しているという声を耳にします。

そのようなことになつているのも、部下や後輩達が上司や先輩など年上の方々と気軽に雑談をする機会が減つてることがギャップを埋められない原因の一つなのかもしません。

最近ではドローンレースで障がいを持った世界チャンピオンの日本人若者が出現したり、お年寄りを元気(認知症改善)にする活動も注目され、72歳の方が資格取得されている実績がある中、このドローン事業も障がいの方々の

若い方々には、自分より年齢が上の方々と雑談する時間を持つことをお奨めしています。

何故なら、人生の先を行く上司や先輩の成功体験や失敗体験は、とても素晴らしい教科書だからです。

その時には納得がいかない、理解できない」とだつたとしても、その年齢や立場になると「あの時、あの上司(先輩)が言っていたことは、こういって」などだつたんだな」と実感と共に深めることができると共に、失敗を繰り返さないためのリスクヘッジにもなるからです。

笠井先生の言われる上司(先輩)と部下(若者)との世代間ギャップを埋める絶好の機会です。是非、積極的に参加していただき、コミュニケーションに対する苦手意識を超えて、気持ちのいいイナテックグループにしたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

自分の都合

米津神社氏子総代だより

「長生きすることばかりが求められますが、大事なのは、生きた長さではなく、どう生きたかです。」(医学博士・帯津良一氏)

自分に与えられた時間(いのち)を「誰かのために」使う力が沸き上がってくる。一方、自分の都合を優先すれば、他人に不都合を強いて争うことなどが生じる。私たち一人ひとりは誰かのお蔭で生きているのです。衣食住ではお金を払えば、自分が欲するものが手に入りますが、生産者がいて、それが私たちの手元に届くまで多くのお蔭があります。

この“自分の都合”的文章を読んでいただき、〇のためにという「利他の心」が根底にあります。

もう一度、原点に返つてみましょう。気持ちのよいイナテックが出来上がります。

圖未就之功、不如保已成之業。悔既往之失、不如防將來之非。

八〇

まだ成就していない事業の完成をあせるよりも、すでに完成している事業を永く保ち発展させる方がましである。また過去の過失をいつまでも後悔するよりも、将来の失敗を早く予防する方がましである。

